

小さく生まれて、ほかの子 の成長に追いつかない...

SGA性低身長症のおはなし



【監修】社会福祉法人 愛正会 愛正会記念 茨城福祉医療センター センター長・
昭和大学 名誉教授 板橋 家頭夫



成長ホルモン治療に関する情報を提供するサイト

成長相談室

ファイザー 成長相談室



あなたのかかりつけ病院

主治医

緊急連絡先

ファイザー株式会社
東京都渋谷区代々木3-22-7

GEN46N002A

2023年3月作成



もくじ

1. 生まれたときのおはなし3
 - 「SGA」とは
 - 「SGA」で生まれても、成長は追いつくの？
2. SGA性低身長症とは5
 - 2～3歳までに成長が追いつかない場合
 - Column** SGAだけではない。低身長は、なぜ起こる？
3. どんな治療になるの？7
 - 小児科を受診しよう
 - 検査のいろいろ
 - こう治療します - 治療のポイント -
 - お子さんの不安を少しでも解消するために

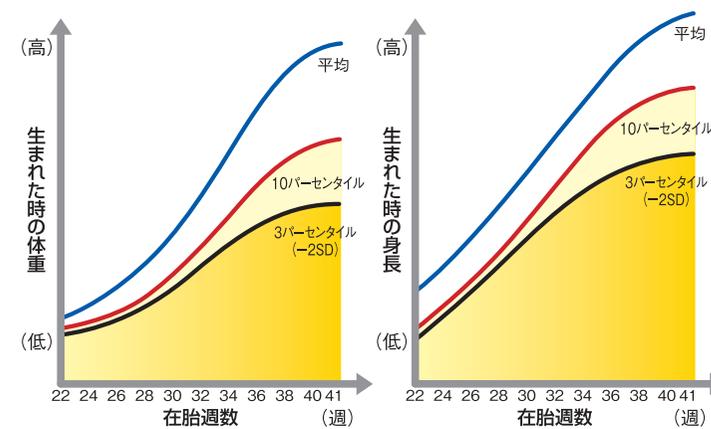
「SGA」とは

SGA—多くの方にとって聞き慣れない単語だと思います。英語の「small-for-gestational age」の略で、お母さんのお腹の中にいる期間(在胎週数)に相当する標準身長・体重に比べて、小さく生まれたことをいいます。

◆どのくらい小さいとSGAなの？

たとえ同じ週数で生まれたとしても子どもの大きさはいろいろです。SGAであるかどうかは、同じ在胎週数で生まれた子の標準と比べて、身長・体重がどのくらい小さいかをみて判断します(下図参照)。身長と体重が100人中小さいほうから10番目以内(10パーセント)に入ると、SGAと診断される可能性があります。くわしくは専門医に診てもらってください。

在胎週数別出生時体格基準曲線模式図



◆どうして小さく生まれてきたの？

胎児の発育には、遺伝や、胎児、母体、胎盤の状態などいろいろな要素がかかわっています。このため、なぜ小さく生まれてきたかの原因を特定することは難しく、多くの場合、複数の因子が重なって起こると考えられています。

「ちゃんと産んであげられなかった」などと気に病んでしまう方もいるかもしれませんが、SGAで生まれても、ほとんどの場合、成長は追いつきます。

2.SGA性低身長症とは



「SGA」で生まれても、成長は追いつくの？

SGAで生まれた子の約90%は、2～3歳までに成長が追いつきます。ですから心配しすぎる必要はありません。大切なことは、お子さんが順調に成長しているかどうかを確認することです。そのために活用したいのが「成長曲線」です。これに、身長と体重の記録をつけていきましょう。そして2～3歳になったら、問題がないかどうか、一度小児科医に診てもらってください。

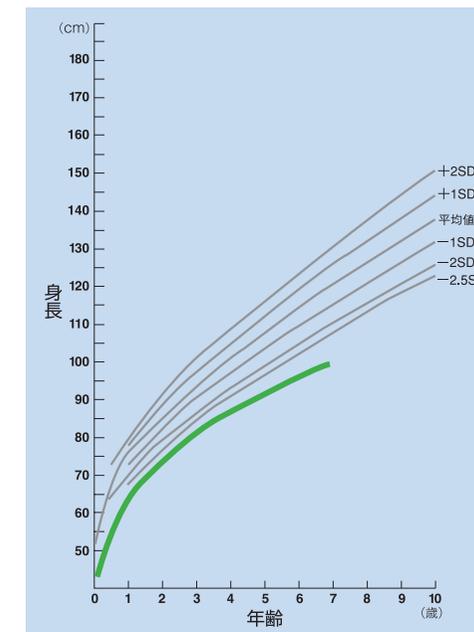
Point

成長曲線をつけて2～3歳になったら小児科医に一度診てもらいましょう。

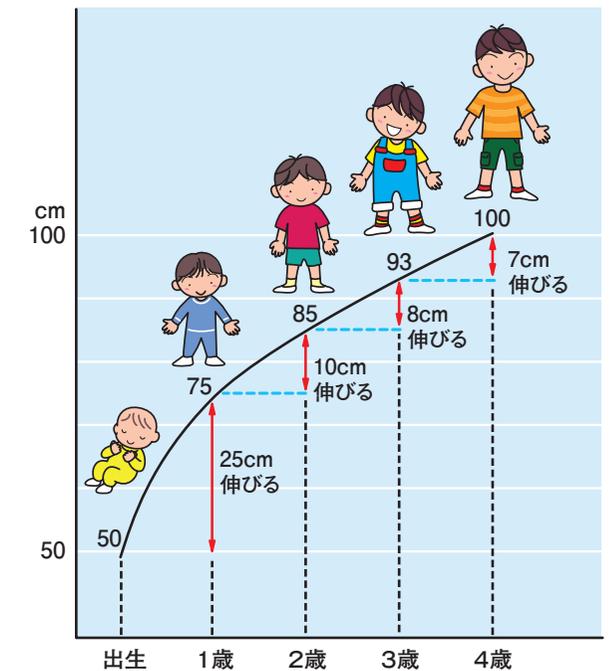
2～3歳までに成長が追いつかない場合

低身長には、体質性のもの、病気によるものなど、さまざまな原因が考えられますが(P6のColumn参照)、SGAで生まれたために起こる低身長もあります。2～3歳になってもほかの子に成長が追いついてこない場合、SGA性の低身長かもしれません。SGA性の低身長かどうかの判断は、専門医が行います。いまの身長が標準からどのくらい離れているか、1年間でどのくらい成長しているかなど、成長曲線や母子健康手帳の記録をみて判断します。

SGA性低身長症の場合、こんな成長曲線が描かれます。



出生から4歳までの平均的な背の伸び方



田中敏章:成長障害の臨床1 メディカルレビュー社:2, 2004

3.どんな治療になるの？



SGA性低身長症のお子さんは、成長期を通じて、また成人になっても、背が低いことが考えられます。このことから、ほかの低身長症と同様に、自分に自信がもてない、ひきこもりになる、学校の友達となじみにくい、などの問題が起こりうると、専門家たちの間で考えられています。

Point

SGA性低身長症かも？と思ったら、小児科医や小児内分泌を専門とする医師に相談してみてもいいでしょう。
診断がつけば低身長を改善するために、3歳から成長ホルモンによる治療を始めることが可能です。

小児科を受診しよう

SGA性低身長症であるかどうかを見極め、適切な治療を進めていくために、小児科(小児内分泌科など)を受診してください。その際、母子健康手帳と成長曲線の記録を持っていきましょう。これらの情報が、低身長の原因を知る重要な手がかりとなります。

早く治療を始めれば始めるほど、治療の効果は期待できるといわれています。標準身長から大きく隔たらないうちに、治療を開始するとよいでしょう。

Point

母子健康手帳と成長曲線を持って小児科へ。
早期治療が大切です。

Column SGAだけではない。低身長は、なぜ起こる？

「成長」は、子どもにとって大切な仕事。睡眠・栄養・運動をしっかりとする必要があります。しかし、これらが十分であっても、背があまり伸びないこともあります。なぜでしょうか？親の身長が低い—これも原因のひとつです。遺伝・体質的なものですから問題はありませぬ。子どもの低身長のほとんどが、体質的なものだといわれています。

一方、病気が原因でひき起こされる低身長もあります。成長ホルモン分泌不全、染色体の異常、腎臓の病気、骨の異常などです。これらは治療を行う必要があります、それによって身長が伸びる可能性があるでしょう。

そのほかにも、親が愛情をもって育てない場合に起こる「愛情遮断症候群」などがあります。ひと口で「低身長」といっても原因はさまざま。背が伸びない理由は何か、そして治療は必要なのかどうかを、きちんと見極めることが大切です。

低身長の原因いろいろ

- ・体質性
- ・SGA性
- ・ホルモンの異常(成長ホルモンの分泌不全など)
- ・腎臓・肝臓・心臓などの病気
- ・愛情遮断症候群
- ・染色体の異常(ターナー症候群など)
- ・骨の異常



検査のいろいろ

病院では、どのような検査が行われるのでしょうか？
子どもの状態、低身長の原因を知るために、次のようなことが行われます。

問診

先生に聞かれること

- 生まれたときの状態
(身長・体重、在胎週数など)
- 食事や生活習慣について
- これまでにかった病気
など



血液検査

成長ホルモンがどのくらい分泌されているかを調べます。



身長・体重測定

現在の身長・体重が、どのくらい平均から離れているかをチェックします。



レントゲン検査

骨の状態から、発育の度合いを調べます。



こう治療します - 治療のポイント -

SGA性低身長症は、成長ホルモンによって治療します。

◆成長ホルモンの治療とは？

成長ホルモンは、骨の軟骨細胞に働きかけて骨を伸ばします。成長ホルモンはたんぱく質の一種なので、飲み薬にすると胃腸で消化・分解されてしまいます。そのため、注射による治療となります。

◆どうして早期発見・早期治療が大切なの？

成長ホルモン療法は、治療できる時期と効果があらわれる時期に限りがあります。大人の骨になると、いくら成長ホルモンを注射しても身長が伸びることはないのです。子どものうちに治療を始めることが重要です。また、早く治療を始めるほど効果が期待できるといわれています。

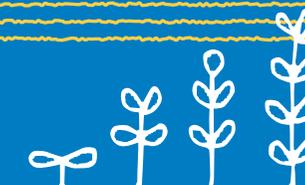
◆成長ホルモンの注射は、いつ、どこですの？

1日1回、注射をする必要があります。毎日病院に通うのは大変ですから、家族(本人)が自宅で自己注射することが認められています。

◆注射は、痛くない？

子どもにとって、注射は怖いものでしょう。そこで感じる痛みを少しでも減らせるよう、細く短い注射針を使います。また、ふだん病院で目にする注射器のかたちではなく、ペンのかたちをしています。自宅で簡単に注射ができるように、さまざまな工夫がなされています。





◆治療はいつまで続けるの？

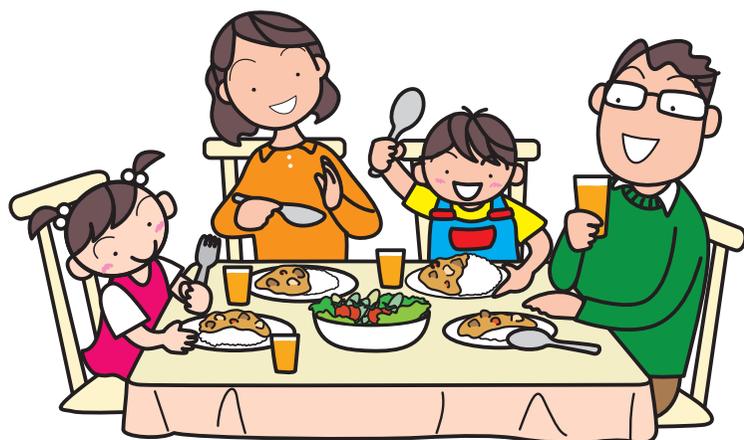
お子さんそれぞれによって異なりますが、治療は長期間にわたると考えてください。最初の1年間は効果がもっともあらわれやすいため、とても重要な期間になります。骨が成熟してしまうと、それ以上背は伸びなくなります。大人の骨になるまで、治療を続けていきましょう。

◆どんな副作用が考えられるの？

副作用としては、注射したところの発疹、頭痛、吐き気、骨や関節の痛みなどが生じることが考えられます。もともとからだの中で作られている成長ホルモンを足す治療ですが、気になることがある場合は、治療を開始する前でも治療中でも、医師に相談しましょう。

◆日常生活で注意することは？

成長ホルモン治療中、特に禁じられている行動はありません。早寝早起きをする、1日3食バランスよく栄養をとる、よく遊びよく運動する一すこやかな成長のために大切なことを心がけていきましょう。



お子さんの不安を少しでも解消するために

病院で、何をされるんだろう？

注射なんていやだ！

どうして大きくなれないといけないんだろう・・・

治療を始めることになったら、お子さんにもいろいろな不安があるかもしれません。子どもの不安を察知し、安心できるように励ましてあげることが、治療を続けるうえで大切になってきます。



お子さんにとって、自分は大切に思われている、理解されている、と感じることが安心につながります。また、年齢によっては難しいときもありますが、治療の必要性や内容を伝え、受け入れてもらうことも重要です。

医師や看護師と協力しながら、お子さんが不安に思うことのないように、治療を続けていきましょう。